

Sumitomo Dental Clinic News Letter 2018年8月号

堺市北区蔵前町3-2-8 サンロード蔵前104

☎072-250-3117

住友歯科医院

検索Q



こんにちは！住友歯科医院 院長の住友 敏彦です。
炎天下に立つと、ちりちりと肌が灼ける音さえ感じます。
今年も各地で猛暑日、豪雨といったふり幅の大きい気象現象が起こっています。
日本は温帯ではなく亜熱帯になってしまったという話はあながち間違いではないような気がします。
暑さに負けず、夏を乗り切りましょう。
お口のことでお困りごとがございましたらどうぞお気軽にご相談ください。

■ごあいさつ

住友歯科医院にお通いくださる皆さま、初めまして！今度新しく仲間入りした受付の片田真有です。

例年にない猛暑が続いています。先日も散歩中の犬が舌を垂らして、はあはあと息を吐いていました。毛皮を着た動物は人より暑いのでしょね。おかげさまで私は夏バテも知らず元気に暮らしておりますが、皆様はいかがですか。

今回は自己紹介も兼ねて、皆さまにご挨拶したいと思います。

■ My favorite things

①家族旅行 さて、私は旅行が好きで、休みの日はよく家族で出かけます。今年の2月には家族旅行を計画し、シンガポールに行ってきました。これがその時の写真です。



有名なマライオンと2ショット！！シンガポールは日本と違い湿度が低いためカラッとした暑さなのでとても過ごしやすかったです。ナイトサファリとユニバーサルもとても楽しかったですし、大好きな家族の楽しそうな笑顔を見るのが何より嬉しかったです。

どこかへ旅行に行った時、偶然見た風景や、出会った人々にいたく感動することがありませんか？そんな時「旅は日常から非日常への転換である」という祖父の名言が過ります。

大人になると、幼い頃にくらべ心を動かされることが少なくなると思います。だから人は新しい何かを求め、日常を離れた場所へ向かって旅をするのかもしれないね。みなさんもどこ

か行かれたら是非お話しをお聞かせください。(*/ω＼)

②映画鑑賞 映画全般！ミュージカル映画も好きで、ここ最近の作品で印象に残ったのは『グレイテスト・ショーマン』！面白かったです。特に髭女ことキアラ・セトルがソウルフルに歌い上げ、第90回アカデミー賞主題歌賞にノミネートされた主題歌「This Is Me」。「I am who I'm meant to be, this is me (これが私のあるべき姿なの、これが私よ)」思い返すだけでも鳥肌が立つほど感動しました。

③歩んできた道 学生時代はカラオケ店でアルバイトをしていました。初めての接客業。慣れるまでがとても大変で、ちょっと落ち込むこともありましたが、お客様からお声がけいただいたり、ピンチがあっても仲間たちと支え合って乗り切ることができました。今思い返しても、社会人としての土台を作る、貴重でかけがえのない経験をさせていただいたと、感謝の気持ちでいっぱいです。



■ 歯科医院は怖くない！

皆さんは「歯科医院」というとどんなイメージがありますか？正直私が小さい頃は、怖いイメージがありました。

栄養学科を卒業して栄養士の免許を持っていますが、栄養の入り口である歯は体の器官の中でも重要な役割を担っていることに気づきました。歯を守り、口内環境を整える、ひいては全身の健康を口腔から考える上で、毎日摂取する栄養のことを知することは非常に重要なことだと感じています。

医療の世界は初めてですが、院長はじめ素敵な先輩方をお手本に日々勉強を頑張り、歯科の「怖い、苦手」などのマイナスなイメージを変えられるよう、笑顔いっぱい皆さまをお迎えしたいです！「痛くならないために通う歯医者さん」これからもどうぞよろしくお願いたします！！

住友歯科医院 片田 真有



住友院長のおもしろこぼれバナシ

Hot Break Times



住友歯科医院
Topics

「予防」の大切さ

より快適に、もっと歯周病を治すために住友歯科医院で取り組んでいること。

今回は「予防」についてお話をさせていただきます。

歯の専門家として

皆さんは「歯を治療して終わりでは、再び悪化してしまうリスクが高い」ということをご存知でしょうか？

なぜなら、病気になった部分というのは病気になりやすい部分だからです。放っておけば、再び病気になりやすいことはご理解いただけだと思います。

当医院では、歯を治療した後がスタートだと考えております。

つまり、治療した部分は、「この歯は悪くなりやすいので、気をつけてくださいよ、注意してくださいよ、ちゃんとお手入れしてくださいよ」という体からのサインだと考え、その歯を守るためのお手伝いを当医院にさせていただきたいと思っております。

なぜなら、歯のお手入れや、管理をご自分一人で行うには限界があるからです。どんなに一生懸命磨いても、細菌の膜や硬い歯石を完全に落とすのは個人の力では不十分だからです。

歯科医院でなければできないお手入れもあります。当医院、ご自身、お互いに来ることを活かして、虫歯、歯周病を予防していけたらと思っております。

「予防」への思い

歯科医師になって三十年近くになりますが、歯が痛くなったり、不具合の出る時というのは仕事が忙しかったり、大事な用事があるときに限って起こることが多いと経験的に感じます。

なぜ、定期的なお手入れをお勧めするのかといえば、不意に歯の調子が悪くなることをできる限り無くしたい。そう思うからです。急に調子が悪くなってお困りになるかたを沢山見てきたからです。

痛みを取るだけで、その場をやり過ごし、しっかりと治療せずに歯を失ってしまう。「あの時、ちゃんと歯を治しておけばよかった」と後悔して頂きたくありません。

定期的なお手入れを前もって予定して行うことと、何か大切な予定があるにも関わらず歯の不具合のために予定をキャンセルしなければいけないこと。どちらが面倒なことが無く、体、健康のためになるかは明らかだと思います。

定期的なお手入れが、大切なものを守ることにのお手伝いになると確信しているからこそ、お勧めしております。

当医院は「歯が痛くなったら行く場所」から、「痛くないために行く場所」にしたいと思っております。

どうぞお気軽にご相談ください。

思い出写真館とめぐる Dr.Toshihiko's Essay

「お箸の国の人だもの」

「箸の日」と「箸供養」

8月4日は、お箸の記念日「箸（はし）の日」です。「お箸を正しく使おう」という民俗学者の提唱で、わりばし組合が1975年に制定しました。

この日、東京・千代田区の日枝神社では、長さ1mの大きな箸を供え、古いお箸を燃やし、供養するという祭を行うそうです。

「お箸をわざわざ供養？どうして？」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、米食文化の日本において、古来からお箸には使った人の霊が宿るといふ言い伝えがあります。毎日手にしてお世話になっているお箸を他のごみと一緒にポイッ…捨てづらいですね。という訳で、箸供養=お箸の感謝祭があるのです。

右手・左手、お箸はどっち？

今ではあまり言われなくてもいいかもしれませんが、私たち世代の中には「箸は右手で使うもの」とされ、右・左を教わる際に、「箸を持つ方が右！」と躰られた経験がある人も多いのでは？なぜ、左利きの人まで右にしなくてはならなかったのか？それは、左手が「不浄の手」とされていたからのようです。

お箸の歴史

お箸の発祥については今のところよくは分かっていませんが、「中国である」というのが定説にはなっているようです。日本で箸食を制度として採用したのは、皆様もご存知「聖徳太子」です。中国（隋）の国の文化を知り採用することにしたんですね。

「日本人の一生は、お箸に始まり、お箸に終わる」と言われるように、私たちにとって「お箸」は、とても重要な役割を担ったものです。お箸の使い方などにはその人の生まれや品性が現れるといいますし、しっかりと躰られた人も多はず。

グローバル社会の昨今、お箸の使い方のマスターはもちろん、お箸に関する知識もしっかり得て、世界に発信できるようになりたいなあと思えた記念日です。

